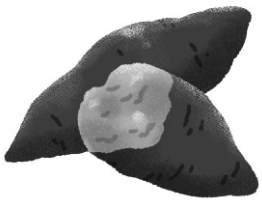
農業



令和７年12月号
会誌　No. 1737

目　次

巻頭言
八ヶ岳農業大学校，その後……大杉　　立 3

論　壇
国内におけるスマート畜産技術の展開……土肥　宏志 4

農業懇話会
「令和６年度食料・農業・農村白書」について……植杉　紀子 6

表彰農家訪問
南部藩発祥の地で営む大家族によるブロイラー・果樹・野菜の複合経営
……納口るり子 21
―青森県南部町に沼畑俊一氏を訪ねて―

研究の最前線
樹園地における精度の高い気温観測ネットワークの構築と普及から
始まった教育への展開……臼井　靖浩 30

農業・農村の現場から
日本最北の冬野菜栽培……秋山　直人 40

私の経営と志
八代平野でい草の栽培・加工……清田　一生 45
―国産い草のバトンを次の世代につなぐ―

統計情報

「い」の作付面積，収穫量，生産農家数，および畳表生産量の推移（熊本県）…… 47

農政情報…… 48

大日本農会だより…… 49

編集部から…… 49

『農業』年間総目次…… 50

表紙写真説明：シリーズ農村の伝統祭事

農民の正月—西表島・祖納と干立の節祭
（沖縄県　竹富町）

西表島の祖納（そない）・干立（ほしたて）両地区に伝わる「節祭（シチ）」は，旧暦８月以降の己亥（つちのい）の日から３日間にわたり行われる，国指定重要無形民俗文化財の祭礼です。五穀豊穣（ほうじょう），航海安全，地域の繁栄を祈願する神事として，約500年の歴史を誇ります。

祭りは「トゥーシヌユー（年の祝い）」「ユークイ（世乞い）」「トゥズミ（締め）」の３日間で，２日目に奉納芸能が催されます。祖納では，神を迎える船漕（こ）ぎが行われ，初めに豊作を乞う祈願，次に競漕（きょうそう）が行われます。そして棒術や獅子舞，ヤフヌ手，ミリク（弥勒）行列に続き，黒装束の女性が顔を覆って練り歩く「フチダミ」と「アンガー行列」が登場します。顔を黒布で覆い，クバ笠をかぶった姿は，異国から戻った娘が顔を隠したという伝承に由来します。

干立では同様の神事に加え，特徴的な「オホホ」と呼ばれる道化がミリク行列の最中に現れ，「オホホホホ」と奇声を発しながら金を見せて子どもたちを誘いますが，誰にも相手にされず寂しく去っていくという演出がなされます。これは，金で子どもを買おうとする外国人や子のいない富豪を風刺したものとも言われています。

両地区の節祭は，神事と芸能が融合した独自の文化を今に伝えています。

（写真・文：竹富町観光協会）